

# 超臨界流体部会 令和3年度 第1回役員会資料+議事メモ

(役員会)

日時：令和3年9月22日(水) 12:00~13:00

場所：オンライン会議(学会 GOING VIRTUAL システム)

## 報告事項

- |                               |      |
|-------------------------------|------|
| 1. NEWS LETTER No.32 に関する報告   | 資料 1 |
| 2. 第 20 回サマースクールに関する報告        | 資料 2 |
| 3. MTMS'21 に関する報告             | 資料 3 |
| 4. 化学工学会第 52 回秋季大会について        | 資料 4 |
| 5. 2021 年度(令和 3 年度)化学工学年鑑について | 資料 5 |
| 6. 会員数・会員異動について               | 資料 6 |
| 7. 共催、協賛事業、関連国際学会について         | 資料 7 |
| 8. その他                        |      |

## 審議事項

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 1. 令和 3 年度活動計画                  | 資料 8  |
| 2. 部会 HP の更新作業について              | 資料 9  |
| 3. 超臨界流体・基礎セミナーについて             | 資料 10 |
| 4. セミナー バイオマス処理における亜臨界水の活用について  | 資料 11 |
| 5. 令和 4 年度予算案について               | 資料 12 |
| ※今年度から本格的に会計ソフトが導入、基金の計画的執行について |       |
| 6. その他                          |       |

## 報告事項

### 資料1 NEWS LETTER No.32に関する報告

---

担当：宇敷 育男（広島大学）、織田 耕彦（東京工業大学）

発行：令和3年7月1日（電子メールで送付）

部数：291

内容：A4, 16 ページ

- ・ 巻頭言 渡邊部会長
- ・ 化学工学会 IChES2021/第86回年会・国際シンポジウム開催報告
- ・ 化学工学会第86年会 学生賞報告
- ・ 超臨界流体部会第20回サマースクール  
「シミュレーション技術の最前線と物性情報に立脚した材料・プロセス設計」
- ・ 受賞者リスト  
2019年度, 2020年度
- ・ 2021年度（令和3年度）部会幹事・委員
- ・ 編集後記
- ・ 行事予定

### 資料2 第20回サマースクールに関する報告（基礎物性 分科会）

---

「シミュレーション技術の最前線と物性情報に立脚した材料・プロセス設計」

日時：2021年9月2日（木）13:00～17:00

場所：Zoom Cloud Meetings（オンライン講演会）

オーガナイザー：春木 将司、本間 哲雄、寺谷 彰悟、平賀 佑也

参加人数 57名（うち講師4名、学生19名）

「画像解析を連携した多孔質体内分散系流れの数値シミュレーション」

広島大学 石神 徹 氏

「汚染土壌改質・浄化に向けた超臨界二酸化炭素中の熱物質移動現象の可視化技術」

東北大学 神田 雄貴 氏

「機械学習を活用した分子・材料の物性予測」

明治大学 金子 弘昌 氏

「ペトロリオミクスを活用した物性推算技術開発」

出光興産株式会社 間瀬 淳 氏

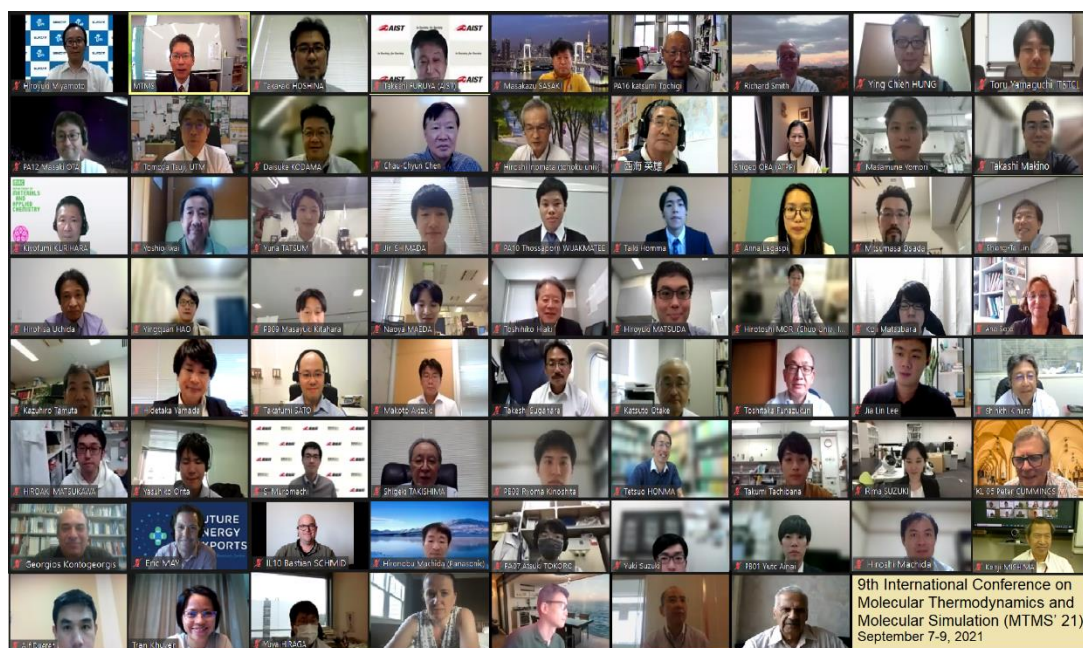
## 9th International Conference on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (MTMS' 21)の開催報告とお礼

International Symposium on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (MTMS)は基礎物性部会と超臨界流体部会の共同主催の国際会議であり、1994年から3年ごとに日本で開催されています。今回、MTMS' 21は、令和3年9月7日(火)～9日(木)に東北工業大学を本部として、オンラインで開催されました。参加者は90名(招待17名、一般47名、学生26名)であり、そのうち、海外からの参加者は10か国15名でした。発表件数はPlenary Lectureが1件、Keynote Lectureが6件、Invited Lectureが11件、一般研究の口頭発表が17件、同じくポスター発表が32件の総計67件でした。

今回オンライン開催となったことで、海外から著名な研究者、技術者を多く招待することができ、充実したシンポジウムとすることができました。特にFluid Phase Equilibria誌のエディター全員に講演頂き、実用的な分野からサイエンティフィックな分野まで幅広い分野の講演を聴講することができました。また、もう一つの特徴として従来のポスターセッションに代わりフラッシュトーク付のポスターセッションとしたことです。ポスター(従来の1枚もの大サイズのポスターではなく、10ページ程度のpdf)を学会前日から公開し、チャットを用いてディスカッションを予め行い、学会最終日に2会場並列で1件10分間のフラッシュトークを実施しました。フラッシュトーク5～6件をまとめて質疑(20～25分)を実施するもので、充実した質疑が交わされておりました。このポスターセッションの学生発表者22名の中からStudent Presentation Awardを8名に授与しました。発表されたどの学生さんも発表のレベルが高く、審査が拮抗したことを申し添えておきます。

最後に、本会が盛大にかつ無事終了できたことは、共催頂いた基礎物性部会、超臨界流体部会、ならびに助成頂きました青葉工学振興会からのご支援、実行委員や座長をお務めになられた先生方のご協力、さらにはご参加いただいた皆様方の絶大なるご支援の賜であると、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

MTMS'21 実行委員長 佐藤善之(東北工業大学)、金久保光央(産総研)



#### 資料4 化学工学会第52回秋季大会について

---

##### SY-73 超臨界流体部会シンポジウム (材料・合成 分科会)

日本の超臨界流体技術—これまでの20年とこれから—

オーガナイザー：菅居 高明 (東北大学)・百瀬 健 (東京大学)・

鈴木 章悟 (アルビオン)・陶 究 (産業技術総合研究所)

超臨界流体部会は本年で20周年を迎えました。本シンポジウムでは、本部会20年の歩みを振り返るとともに、亜臨界・超臨界流体の物性などの基礎から、亜臨界・超臨界流体の環境、エネルギー、材料分野等への応用まで、幅広い視点での最新の研究成果について活発に議論することを目的としています。今回のシンポジウムでは、依頼講演5件の他に、部会20周年記念講演として招待講演4件がございます。

[依頼講演] 水熱技術研究に資する大型実証設備の検討

(東西化学産業) (正)秋元 啓太

[依頼講演] バイオマス材料の合成と分解制御のための水熱反応場

(信州大繊維) (正)長田 光正

[依頼講演] 高圧流体を利用した「高速な」化学プロセスの開発 —連続抽出と機械学習—

(産総研) (正) 藤井 達也

[依頼講演] 超臨界流体の物性研究に基づく先端的材料開発とプロセス開発

(金沢大理工) (正)春木 将司

[依頼講演] 超臨界流体薄膜堆積法(SCFD):速度論からデバイス応用まで

(東大院工) (正)百瀬 健

部会20周年記念講演:

[招待講演] 超臨界流体部会の変遷と我国における超臨界流体研究への貢献

(東北大) (正)猪股 宏

[招待講演] 産総研をハブとした産官学連携による超臨界流体利用材料・プロセスの開発と実用化

(産総研) (正)依田 智

[招待講演] 超臨界流体技術における国際連携と産学連携による実用化

(名大院工) (正)後藤 元信

[招待講演] SCF部会関係の過去20年間における研究発表のImpact・展望

(東北大環境) (正)スミス リチャード

また、例年同様、学生発表に対する賞が設けられ、超臨界流体部会に関する発表におきまして、大会3日め(9月24日)午後に表示式を行う予定です。

資料5 2021 化学工学年鑑について (とりまとめ バイオマス・天然化合物 分科会)

年鑑とりまとめ委員 (株)竹中工務店 川尻 聡

執筆者

- 1. 超臨界流体全般 (株)竹中工務店 川尻 聡
- 2. 基礎物性 東北大学大学院工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター 平賀 佑也
- 3. 材料・合成 東北大学材料科学高等研究所 横 哲
- 4.1 バイオマス・天然化合物 (抽出・分離) 東北大学大学院環境科学研究科 大田 昌樹
- 4.2 バイオマス・天然化合物 (反応) 熊本大学産業ナノマテリアル研究所バイオマテリアル部門 佐々木 満
- 5. エネルギー (国研) 産業技術総合研究所 藤井達也

資料6 会員数・会員異動について (令和3年3月から令和3年8月まで)

会員数 328名

会員  
内訳

名誉会員 4名	部会法人会員 3社5名
部会個人会員 225名	法人賛助会員 1社3名
個人賛助会員 12名	学生会員 79名

入会 35名

種別	氏名	所属	入会月
個人	秋元 啓太	東西化学産業株式会社	2021.4
学生	大石 宏太	東京大学	2021.4
学生	松田 修汰	東北大学	2021.4
学生	栗原 歩大	東北大学	2021.4
学生	玉置 優太	福岡大学	2021.5
学生	八嶋 なな子	福岡大学	2021.5
学生	江間 好花	福岡大学	2021.5
学生	浅尾 優太	福岡大学	2021.5
学生	中元 祐綺	福岡大学	2021.5
学生	米重 佑貴	九州大学	2021.5
学生	鈴木 祐輝	日本大学	2021.5
学生	柳原 玲	東京工業大学	2021.5

個人	山下	明泰	法政大学	2021. 5
学生	山口	大弥	東北大学	2021. 6
学生	羽田	旅人	金沢大学	2021. 6
学生	奥田	葵衣	金沢大学	2021. 6
学生	村上	大悟	熊本大学	2021. 6
学生	谷越	陽	東京工業大学	2021. 7
学生	上野	祐治	広島大学	2021. 7
学生	吉田	成秀	東京理科大学	2021. 7
学生	新川	恭平	東京理科大学	2021. 7
学生	曹	良介	広島大学	2021. 7
学生	藤沢	樹生	金沢大学	2021. 7
学生	アリ	モハメド アフ メッド モハメド	広島大学	2021. 7
学生	巽	由奈	東京工業大学	2021. 8
学生	成毛	雄大	信州大学	2021. 8
学生	新谷	謙太	信州大学	2021. 8
学生	高村	優生菜	東北大学	2021. 8
学生	長谷	有絃	東北大学	2021. 8
学生	高橋	大希	東北大学	2021. 8
学生	高宮	尚大	東北大学	2021. 8
学生	熊淵	扶希	広島大学	2021. 8
学生	大倉	聡太	広島大学	2021. 8
学生	松本	栄祐	広島大学	2021. 8
個人	今	美沙紀	株式会社日立ハイテク	2021. 8

---

退会	26名		
種別	氏名	所属	退会月
個人	高橋 智輝	日本大学	2021. 3
個人	野々上 友也	日揮株式会社	2021. 3
個人	マルディ アンシャ	マルディス 名古屋大学	2021. 3 2021. 3
個人	夏目 実佳	信州大学	2021. 3
個人	福田 文香		2021. 3
個人	関口 陽	東京工業大学	2021. 3
個人	ロジエ シルバン	合同会社ろなか	2021. 3
個人	スシロ アントニー	名古屋大学	2021. 3
個人	佐藤 敏幸	日本大学	2021. 3
個人	松尾 康輝	DIC 株式会社	2021. 3
個人	柴崎 絢祐	東北大学	2021. 3

個人	堀之内	舜	東北大学	2021.3
学生	胡	新	名古屋大学	2021.3
個人	渡邊	大雅	東北大学	2021.3
個人	奈良	知幸	株式会社竹中工務店	2021.3
個人	池田	奉古		2021.3
個人	田中	隆大	中央大学	2021.3
学生	篠崎	翔平	中央大学	2021.3
学生	菊池	将大	中央大学	2021.3
学生	遠藤	直弥	中央大学	2021.3
学生	堺	洸稀	福岡大学	2021.3
学生	小川	優太郎	広島大学	2021.3
学生	三浦	兼新	有明工業高等専門学校	2021.3
個人	谷口	彩夏	日本大学	2021.6
個人	西山	開	九州大学	2021.6
個人	リドワン	イワン	金沢大学	2021.9

#### 資料 7 共催、協賛事業、関連国際学会について

---

18th European Meeting on Supercritical fluids (EMSF) 2021 (100% ONLINE)

2021年5月4日－6日 (Bordeaux, France.)

9th International Symposium on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (MTMS'21) (Virtual)

2021年9月7日－9日 (Sendai, Japan.)

The 7th International Solvothermal and Hydrothermal Association Conference (7<sup>th</sup> ISHA 2021) (Virtual)

2021年10月26日－28日 (Cancun, Mexico.)

2021 AIChE Annual Meeting

2021年11月7日－11日 @Boston, MA, USA. (In-Person)

2021年11月15日－19日 (Virtual)

The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021) (Hybrid)

2021年12月16日－21日 @Honolulu, HI, USA.

16. International Conference on Separation Science and Techniques (ICSST) 2022

2022年4月25日－26日 @ Tokyo, Japan.

13th International Meeting on Supercritical Fluids (ISSF 2022)

2022年5月15日－18日 @ Montreal, Canada.

## 審議事項

### 資料 8 令和 3 年度活動計画 (これからの計画)

---

#### 1. 国際関連事業

- ・関連国際シンポジウムなどへの協賛

The 7th International Solvothermal and Hydrothermal Association Conference (7<sup>th</sup> ISHA 2021) (Virtual)

2021 年 10 月 26 日 - 28 日

#### 2. シンポジウム・講演会などの行事

東海支部主催第 55 回化学工学の進歩講習会への協賛について

#### 3. 本部大会・支部行事関連行事

① 秋季大会におけるシンポジウムの開催 → 9 月 22 日 - 24 日に開催

② CVD・ドライプロセス・構造・機能制御の反応工学一, CVD and dry processes

反応工学部会 CVD 反応分科会との共催

オーガナイザー (※いずれも反応工学部会より):

島田学 (広島大), 羽深等 (横浜国大), 西田哲 (岐阜大), 杉目恒志 (早稲田大)

#### 4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

#### 5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

一年鑑の担当・執筆 → 10 月に発行予定

#### 6. 受託事業の推進

ープロジェクト研究の企画検討 (チーム編成)

#### 7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

ーニュースレターの発行 (年 2~3 回)

ニュースレター編集委員: 宇敷育男先生 (広島大学)、織田耕彦先生 (東京工業大学)

NEWSLETTER No. 32, 2021 年 7 月発行

#### 8. 特記事項 特になし

## 内訳詳細

### ■協賛行事 ー 第 55 回 化学工学の進歩講習会

主催: 化学工学会東海支部

日時: 令和 3 年 12 月 15 日 (水), 16 日 (木)

場所: 名古屋大学 野依記念学術交流館およびオンライン (Zoom ウェビナーを利用)

1. 脱炭素社会実現に向けた技術展開と課題 (東京大学) 菅 蔗 寂樹 氏

#### 2. CO<sub>2</sub> の分離, 回収技術

2.1 化学・物理吸収法による CO<sub>2</sub> 分離回収 (名古屋大学) 町田 洋 氏

2.2 吸着・固体吸収法による CO<sub>2</sub> 分離回収 (名古屋大学) 藤木 淳平 氏

2.3 大規模 PSA システムを目指した高炉ガスからの CO<sub>2</sub> 分離回収技術開発 (JFE スチール) 紫垣 伸行 氏

2.4 冷熱を利用した CO<sub>2</sub> 回収の新技術 (名古屋大学) 則永 行庸 氏



- 3. 再生可能エネルギーと炭素フリー燃料
  - 3.1 太陽電池の技術動向 (名古屋大学) 宇佐美 徳隆 氏
  - 3.2 なぜ世界では風力発電の大量導入が進むのか? (京都大学) 安田 陽 氏
  - 3.3 大規模水素輸送システムのエクセルギー解析 (北海道大学) 能村 貴宏 氏
  - 3.4 アンモニア合成触媒の新展開 (名古屋大学) 永岡 勝俊 氏
  - 3.5 アンモニア混焼 (北海道大学) 橋本 望 氏
  
- 4. CO2 利用技術
  - 4.1 メタネーション触媒反応器の実験手法と数値流体解析 (名古屋大学) 福本 一生 氏
  - 4.2 CO2 を利用した再生可能エネルギーの燃料化技術 (日立造船) 泉屋 宏一 氏
  - 4.3 メタネーション事業化への追い風と向かい風 (INPEX) 若山 樹 氏
  
- 5. パネルディスカッション：脱炭素化へのアクションー
  - 5.1 脱炭素化に向け我が国独自の新しいエネルギーシステムを考える (エネルギー総合工学研究所) 橋崎 克維 氏
  - 5.2 脱炭素シナリオ：経済的・社会的含意 (東京大学) 杉山 昌広 氏
  - 5.3 再生可能エネルギー開発における社会的摩擦と社会的受容 (名古屋経済大学) 本巢 芽美 氏
  - 5.4 脱炭素に向けた新エネルギー工学・技術の展望 (九州大学) 林 潤一郎 氏

資料9 部会 HP の更新作業について

1. 部会 HP の CMS 化

HP の更新に伴い、①CMS 化する場合と、②CMS 化しない場合を検討した。

	CMS 化した場合	CMS 化しない場合
更新作業	ユーザー側で WEB 上から容易に可能	Web サイト構築の知識が必要 業者に依頼する場合保守費用が必要
動作環境	CMS 対応サーバが必要	掲示板などを使用しない場合は特に制限なし
価格	初期導入費用が高価	内容更新の際に保守費用が必要
	CMS 化 (行事、更新履歴) 385,000 円 CMS 化 (行事、更新履歴+会員専用サイト 4 ページ) 605,000 円	年間更新費 145,200 円 これまで通りの FTP で修正はこちらで 対応可能

CMS 化に伴うサーバの更新、更新・保守費用の観点から、CMS 化は見送ることとした。現在の契約では、年 12 回までの簡易的な更新は、HP 保守費用に含まれている。なお、ユーザー (HP 管理者) 側でもハリウコミュニケーションズ様と情報を共有した上で更新が可能となっている。

## 2. 部会 HP のサーバの移行について

現在、部会 HP は化学工学会のサーバを利用して公開している。化学工学会で現在使用しているサーバ（東京コンピュータ）は OS のサポート終了に伴い、移行の予定がアナウンスされている。他部会では独自サーバに移行しているところもあり、当部会でも部会 HP の CMS 化と合わせてサーバの移行を検討した。CMS 化を見送ったこと、また更新した HP が特別な動作環境を必要としなかったことから、現時点では引き続き、化学工学会のサーバを利用することとした。

## 3. 部会 HP の更新について

ハリウコミュニケーションズ様に依頼し、HP の更新作業を行った 9/10。

(ア) 技術交流掲示板の設置（製作依頼済み・未アップロード）

(イ) 協賛学会などで許可のとれた学会のプロシーディングスの掲載

(ウ) Web に情報の掲載とカード決済

(エ) https への対応

## 資料 10 超臨界流体・基礎セミナーについて

### 【セミナー開催案】超臨界流体・基礎セミナーについて

超臨界流体部会 部会長 渡邊賢（東北大学）

#### 主旨

SDGs について国内外で積極的な取り組みが進められている。また欧州に目を向けると、脱炭素、サーキュラーエコノミー、SDGs、ESG 投資（環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance)）による動機付けに加え、健康問題や大気汚染などの環境保全と関連づけられ、フロン類や特定化学物質に該当しない有機溶媒も、工業プロセスにおいて使用しない方向に向かっている。また、脱炭素について、政府が大胆な達成目標を掲げ、その取り組みが待ったなしの状況になる中、グリーンイノベーション戦略など大型研究予算が計上され、脱炭素に関する研究開発は加速すると考えられる。

そのような事情を背景に最近、超臨界流体を用いた各種プロセスが再び脚光を浴びつつあると実感している。例えば、欧州では医療機関において、医療器具の滅菌・殺菌に、超臨界二酸化炭素を用いた装置の導入が検討されている。また、金属部品の切削・加工において用いられる油を洗浄するため、超臨界二酸化炭素を用いた装置が開発され、それを販売する企業が設立された。こうした社会変革に連動していないが、洗米、ごま油抽出、大麻有効成分抽出、デカフェプロセス、コルク精製、染色と、世界各国で超臨界流体を用いたプロセスが実用化されている。最近、三菱化学がライセンス契約をしたことで耳目を集めたプラスチック油化プロセスは、超臨界水を反応場としたプロセスであり、高温高压水の利用もまた活発化している。

超臨界流体部会は、20 年以上に渡り超臨界流体に関する基盤学術の体系化、技術の普及、新規領域への発展なども視野に、日本の中心的な存在として活動を続けてきた。今後、脱炭素や SDGs を先導する技術開発を促し、超臨界流体を用いて問題解決・技術開発を進めたい企業に対し、高い専門性を有する研究者とのマッチングを促す場を創出し、さらに当該分野をさらに開発させること可能性を模索すべく、セミナーの開催を企画した。

## セミナー概要

大学や企業において超臨界研究の経験が浅い若手研究者や、新たに超臨界の研究を始めることを考えている技術者向けに、超臨界流体技術の基礎についてわかりやすく解説するセミナーを開催する。超臨界流体の特徴や物性、代表的な応用技術、装置設計や実験法、安全などについて、各分野で活躍する専門家が解説する。

## 実施時期

2022年3月頃

超臨界流体部会設立20周年の節目の年度において、2018年度以降開催されていない基礎セミナーを、特別企画として開催したい。その際、CMC [リサーチ出版](#)と連携し、超臨界流体部会の部会員外の、特に企業に宣伝することを考えている。かつて超臨界流体を用いて研究開発を行ってきた世代が現役を去り、新たに超臨界流体に興味を持つ企業研究者が現れているように感じる。この時機を逃さず、新たな研究者超臨界流体を理解していただき、またその可能性を感じさせ、新たな超臨界流体技術の潮流を作り出したい。なお、時期として企業研究者が出席できる場所を選択したいと考えており、それが3月で適当かどうか、企業研究者に意見をきいてみるべきかもしれない。

## 内容

### 基礎・応用講座項目（案）

1日目：超臨界流体基礎

- ・状態方程式
- ・相図
- ・溶解度：二酸化炭素と水

2日目：二酸化炭素プロセス

- (1) 粒子・プレーティング
- (2) ポリマー
- (3) 染色
- (4) 抽出
- (5) 洗浄
- (6) 反応
- (7) イオン液体プロセス

3日目：水

- (1) 粒子
- (2) バイオマス：炭素化
- (3) バイオマス：化合物合成・液化
- (4) バイオマス：ガス化
- (5) プラスチック
- (6) 重質油
- (7) 水熱酸浸出

【セミナー開催案】 バイオマス処理における亜臨界水の活用について

バイオマス分科会リーダー 川尻聡 (竹中工務店)

分科会副代表 佐々木満 (熊本大学)、長田光正 (信州大学)

主旨

脱炭素について、政府が大胆な達成目標を掲げ、その取り組みが待ったなしの状況になる中、グリーンイノベーション戦略など大型研究予算が計上され、脱炭素に関する研究開発は加速すると考えられる。また、SDGsについても国内外で積極的な取り組みが進められ、資源循環などはその中でも重要なマテリアリティとなっている。

そのような事情を背景に最近、飽和蒸気圧近傍のいわゆる「亜臨界水」を用いた取り組みで、事実とかけ離れた内容も含め、ともすると亜臨界水処理の実態大きく誤解させる内容の記事などが散見されるようになった。例えば、生ごみを処理しメタン発酵の効率化が数倍になったや、脱炭素・資源循環の諸問題を解決できるなどがある。超臨界流体部会では、時代に先駆けて超臨界水、亜臨界水、水熱技術、もしくは加圧熱水をグリーン溶媒として活用した事例を多くとりあげ、これらの分野の発展を強く推進すべく活動している。そのような背景をもって最近の状況を俯瞰すると、「亜臨界水」という言葉の定義も含め、高温高压状態の水ができることは果たして何か、整理し伝える場が必要ではないかと強く感じている。そこで、亜臨界水・水熱を含めた超臨界流体に関して、20年以上に渡り基盤学術の体系化、技術の普及、新規領域への発展なども視野に、日本の中心的な存在として活動を続けてきた超臨界流体部会が率先して、誤ったイメージが定着しないよう正しい情報を発信するとともに、真摯に問題解決・技術開発に取り組む企業に対し、高い専門性を有する研究者とのマッチングを促す場を創出し、さらに当該分野をさらに開発させること可能性を模索すべく、セミナーの開催を企画した。

セミナー概要

バイオマス処理における亜臨界水の活用に焦点を当て、高温高压条件の水の中でも、特に亜臨界水、水熱条件を用いたバイオマスの処理事例を中心に講演する。脱炭素や資源循環の流れを受けてバイオマスを活用したいと考えている層を対象とするため、既往の研究成果、事例を中心に行う。

実施時期

2021年12月中

生き馬の目を抜くような状況の中、拙速でも巧遅に勝るというスタンスで、既往研究中心のセミナーを開催する。以降、年度内に2回目(新たな取り組みなどを含む)、1、2回目をまとめた書籍の発刊(もしくは、バイオマス処理におけるガイドブック発刊を前提に2回目を企画する)という流れで今年から来年にかけて五月雨式に発信をしたいと考えている。

講師

バイオマス分科会メンバーや静岡大学・岡島先生などを中心に、協賛として日本エネルギー学会、バイオマス部会の参画を考慮し、広島大・松村先生、NEDO ガイドラインに関係している豊橋技科大・大門先生など、自薦他薦を募り、5~7人程度/日で考えたい。

2022年度予算 正味財産増減計算書  
(2022年3月1日から2023年2月28日まで)

部会名：超臨界流体部会

部会長：渡邊 賢

印

項目		2022年度予算
<b>経常増減額</b>		
<b>I. 経常収益</b>		
1. 会費収入		220,000
内 訳	部会法人会員	90,000
	個人賛助会員	30,000
	法人賛助会員	100,000
2. 部会事業収入		1,190,000
内 訳	サマースクール	500,000
	超臨界流体基礎セミナー	250,000
	第42回部会集会(懇親会費含む)	220,000
	第43回部会集会(懇親会費含む)	220,000
3. 分科会事業収入		0
内 訳	特定資産受取利息収入	
	普通・郵貯預金受取利息収入	1,000
4. 利息収入		0
内 訳	特定資産受取利息収入	
	普通・郵貯預金受取利息収入	
5. 雑収入		10,000
内 訳	書籍印税	10,000
6. 他会計からの繰入金		270,000
内 訳	部会交付金(本部より)	270,000
<b>経常収益 計</b>		<b>1,690,000</b>
<b>II. 経常費用</b>		
1. 事業費		1,250,000
(1) 部会事業費支出		1,250,000
内 訳	サマースクール	500,000
	超臨界流体基礎セミナー	250,000
	第42回部会集会	250,000
	第43回部会集会	250,000
(2) 分科会事業費支出		0
内 訳		
2. 管理費		447,000
内 訳	会議費	50,000
	旅費交通費	100,000
	施設利用費	0
	通信運搬費	150,000
	印刷製本費	20,000
	消耗品費	20,000
	複写費	10,000
	支払負担費	
	図書費	0
	雑費	47,000
臨時雇賃金(アルバイト)	50,000	
3. 他会計への繰出金		0
内 訳		
<b>経常費用 計</b>		<b>1,697,000</b>
収支差異		-7,000
<b>特定資産の増減</b>		
(1) 特定資産の増加		
(1) 特定資産の減少		
特定資産の増減額		0

※今年度から会計ソフトが本格的に導入，基金の計画的執行について